

IV おわりに

平成23年（2011）診断分の広島県のがん登録報告書が完成いたしました。広島県で地域がん登録が始まってから9年が経過した時点の、県内で発症したがんの集計となり、ますます成熟した登録データになっています。

さて、本報告書における5年相対生存率の記載は、前回平成22年（2010）集計より始めました。今回は、平成19年（2007）診断のデータです。全部位での5年相対生存率は65.6%（男性:62.7%、女性:69.5%）であり、最も高かった前立腺では99.8%、最も低かった膵臓では8.5%でした。本データを、広島県のがん対策に役立て、県民の健康増進に有意義に使用されることを願います。

また、本報告書での集計においても、本県の登録精度の高さは維持されています。DCN割合は平成22年（2010）集計の7.2%から6.7%、DCO割合は4.8%から4.1%へと向上しております。遡り調査の回収率の高さも反映されていることは間違いありません。DCN割合、DCO割合の向上は日々の登録業務にあたっていただいている医療機関の皆様のご理解とご協力の賜と深謝いたします。

また、細胞診も含めた病理診断がされた症例の割合を示すMV（microscopically verified cases）割合も、87.4%と全国平均と比較しても高い水準を保っております。これも、本県で独自に実施している広島市地域がん登録、広島県腫瘍登録とデータを相互利用しながら量的、質的にも充実を図ってきた成果の表れであります。全国がん登録スタート後も、有機的に各データを相互利用できるよう、切に願っております。

今後は、平成28年（2016）1月からスタートする「全国がん登録」に向け、広島県のがん登録にご協力いただいております医療機関の皆様に更なるご理解とご協力をお願いするとともに、広島県、放射線影響研究所、および広島県医師会の強い連携と信頼関係を再確認し、今後ますますの発展を目指したいと思います。

平成26年（2014）11月

広島県医師会常任理事 山田 博康
野間 純
津谷 隆史